

本部MA2023-001 2023年4月7日

ひと眠りしてもお酒は抜けない!? 飲酒が運転に与える影響について検証

JAF (一般社団法人日本自動車連盟 会長 坂口正芳) は4月6日 (木)、飲酒が人体や運転にどのような影響を与えるのか、翌朝は酒気残りによる影響はないのかについて検証し、その結果をウェブサイトに公開しました。

2021年6月に千葉県八街市の路上で、小さな子どもたちが飲酒運転のトラックにはねられる事故も起きるなど、飲酒を原因とした悲惨な事故は後を絶ちません。2022年の道路交通法の改正では、事業者の安全運転管理者に対してアルコールチェックが義務付けされましたが、飲酒してから数時間後には、アルコールが体内から抜けると思っているドライバーは少なくありません。そこで、飲酒が運転に与える影響や翌朝の酒気残りによる影響について、運転シミュレーターを使用し検証しました。



実験に参加したモニター6人



株式会社アイロック社製 T3R VRドライビングシミュレーター使用



飲酒による視覚への影響を検証するために トビー・テクノロジー社製アイトラッキングを使用

◆テスト1:飲酒前と直後、翌朝における運転能力を比較検証

飲酒前と直後、翌朝(飲酒開始から 10 時間後)の運転操作を運転シミュレーターで確認し、飲酒による影響を検証しました。また、アルコール検知器で呼気アルコール濃度を測定し、歩行時のふらつきについても確認しました。

結果:飲酒直後は飲酒前と比べ、以下のような傾向が見られました。

- ・ハンドル操作が雑になり、壁にぶつかったり、まっすぐ走れなかったりした
- ・アクセル操作がスムーズにいかなくなり、急加速したり、またブレーキ操作が雑になった
- ・確認や判断ミスが多くなり、事故を引き起こす人もいた

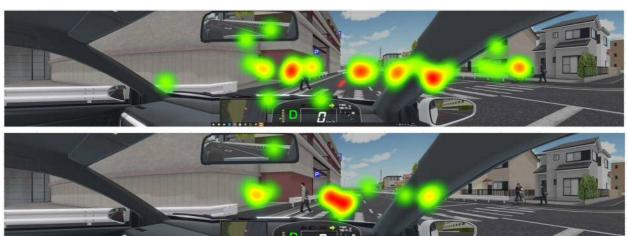
飲酒直後だけでなく、<u>翌朝も飲酒前と比べ、操作ミスや確認・判断ミスが増加。</u>「呼気濃度は出なかったが、体にだるさが残っている。運転もいつもよりパフォーマンスが落ちている感じがあった」という意見があった。





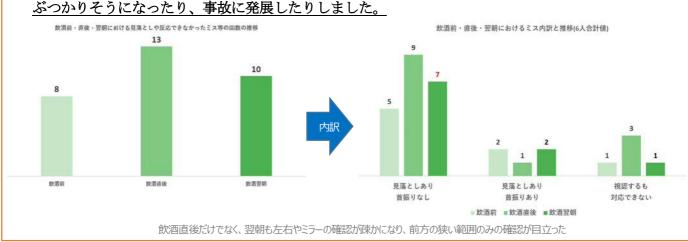
◆テスト2:飲酒後、視覚機能(視野の広さや目の動き)にどのような影響があるのか?

飲酒による視覚機能の影響を調べるためにアイトラッキング(眼球の場所と向きからどこを見て いるのかを表示できる装置)を使用し、飲酒前と直後、翌朝の状況を運転シミュレーターで検証し た。歩行者や自転車、対向車などの見落としがないか、首を振って注視をしているか、危険な運転 操作や対応できていなかったかを検証しました。



アイトラッキングで記録したモニターの視線のデータを可視化したもの(上写真:よく見ていた箇所順に赤色> 黄色>緑色と示されている)

結果:飲酒前は首を振って目視確認していたモニターも、飲酒直後、翌朝ともに左右やミラーの確 認が疎かになり、前方の狭い範囲の確認となったため、死角から飛び出してきた子どもや自転車と



飲酒は車を運転するために必要な視野を狭めたり、判断能力にも影響を及ぼし、飲酒した翌日に まで続く可能性があります。「お酒に強いから大丈夫」「短い距離なら事故なんてしない」ではなく、 お酒を飲んだら絶対に運転せず、公共交通機関や運転代行を利用しましょう。飲酒した翌日にアル コールが検出されなくても、体調が優れない場合は運転を控えましょう。周りの人たちがこれから 運転する人に飲酒を勧めない・飲酒した人に運転させないことも重要です。

JAFはこれからもドライバーの目線に沿った実験をし、交通安全の啓発に努めてまいります。

■テスト結果:JAFユーザーテスト

「資料編]

https://jaf.or.jp/common/safety-drive/car-learning/user-test/drunk-driving/drinking-influence [動画編] https://youtu.be/Wa0d8DdoOzM

[JAFMateOnline] https://jafmate.jp/safety/usertest_20230113.html

一般社団法人 日本自動車連盟 広報課

Fax: 03(3578)4912 Mail: koho@jaf.or.jp URL: https://jaf.or.jp/ Tel: 03(3578)4920

〒105-0012 東京都港区芝大門 1-1-30 日本自動車会館